

83 鬱蒸うつじょう たり陰霖いんりんの雨

84 晨炊しんすい 煙を断絶だんぜつす

85 魚観ぎょくわん 竈釜さうかに生なる

86 蛙咒あじゆ 階軼かいせんに聒かまびすし

87 野豎あじゆ 蔬菜そさいを供くす

88 廝兒しじ 薄饅はくせんを作つくる

口語訳

81 誰かと共に（荒れ果てたこの地で）語り合えたらどんなに心が慰められることか。

82 （そんな話相手もないので）一人さびしく脇を枕にして眠る。

83 毎日、降り続く長雨の梅雨は蒸し蒸ししてうっとうしい。

84 （官舎は雨漏りもひどく）朝ごはんを炊くこともできないで、炊事の煙も絶えてしまっている。

85 （長い間、ご飯が炊けないので）かまどや釜の中に水がたまって、ぼうふらなどが泳いでいる。

86 蛙たちが、きざはし（階段）の敷き瓦のところで、まるでまじないの呪文をとなえるかのようにやかましく

鳴いている。

87 （こんな私に同情してか）田舎（農家）の子供が、野菜を持ってきてくれるし

88 炊事のお手伝いが、うす粥を作ってくれたりもする。